

令和7年10月21日（火） 読売新聞 朝刊・地域面奈良

2025年(令和7年)10月21日(火曜日)

奈良

第1版

豪商ゆかり 館蔵品の魅力



大阪市立美術館の館蔵品の魅力を語る内藤館長（奈良市で）

大阪市立美術館長講演 170人聴き入る

華師寺月例

まほろば塾

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良まほろば塾」（読売新聞社後援）が19日、奈良市の華師寺で開かれた。「美」をテーマに学びを深める「シリーズ美」の初回で、大阪市立美術館の内藤栄館長が同館の館蔵品の見どころを紹介し、約170人が聴き入った。

今月からまほろば塾の塾長に就任した大谷徹英・副住職による法話に続き、内藤館長が講演。同館が日本で3番目の公立美術館として開館し、大阪の豪商らの寄贈や寄託を受けた経緯から、約1万3700件に

及ぶ多彩な作品を収蔵することを説明した。

一押し作品の一つに中国・北魏の「石造如来坐像」を挙げ、卵形の頭部や衣の表現が、北魏の遺跡・雲崗石窟の大仏と共通することなどを紹介。講演後には大谷塾長と美術品の持つ力な

どを巡って対談し、「（関わった）展示を通じて、人生が変わったと感じるほどの衝撃を受けてもらえるとうれしい」と語った。

次回の月例塾は11月16日、奈良国立博物館の井上洋一館長が登壇する。